

『今ここに』にある差別』

朗読者 角岡 伸彦

9

今の時代、すごいですねえ。

ネットかどおかのぶひこで「角岡 伸彦」と検索してみたら、僕に関するいろんな情報が出てきます。「兵庫県出身で自身が被差別部落出身であることを公言している」とか、様々あります。

10

部落差別をなくし、地域の環境を整備するために、国が昭和四十四年（一九六九年）から三十三年間かけて進めてきた同和対策関連事業は、一定の役割を終えたとして平成十四年（二〇〇二年）三月末で終了しました。

15

同和問題は終わった。すでに過去の話だという人たちがいます。でも、結婚などにおいて、部落差別は今も続いています。また、この部落差別は、インターネットの普及と無関係ではありません。

20

ネット上には、ありとあらゆる情報があふれています。有益な情報もあれば、差別の温床になりかねないものもあります。あるサイトに差別的な個人情報に掲載されていても、それが野放しになっているのが現状です。冒頭に申し上げた僕に関する記述も、間違いが非常に多い。これらの情報はほとんど何のチェックも受けていません。

書き手は匿名かハンドルネームで、言いたい放題、書きたい放題。ある意味、勝手に盛り上がっているのですから始末が悪い。ネットで広まった情報は、ほとんど回収不可能です。

内容によっては、企業やサイトの運営者、管理者が毅然とした態度をとり、削除することは可能です。要は、その意思があるかどうかでしょう。

外国の例ですが、ドイツ政府は二〇一五年、フェイスブックやグーグル、ツイッター上で差別を煽るような表現を発見した場合、二十四時間以内に削除すると発表しました。専門家チームを置いて監視を続けています。

インターネットは、知りたいことをすぐに教えてくれる魔法のツール。ただし、先ほど申し上げたように、間違った情報も多いので、要注意です。便利なインターネットが、より普及することはあっても、衰退することはないでしょう。インターネットは、人を誹謗中傷するために使うこともできるし、差別をなくすために利用することもできます。どういった使い方をするかを、私たち一人一人が考えなければ、人権が守られない世の中になりかねません。

ネット社会の差別的な言動にどう対処していくのか。真剣に取り組む時期にきています。